

第49回 支店長のわがまち紹介



千葉県我孫子市

手賀沼のほとり、物語の生まれるまち、あびこ

手賀沼からみた水の館 (写真提供：我孫子市)

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長がゆかりのある市町村をご紹介させていただくコーナーです。第49回は千葉県我孫子市です。北柏支店長が我孫子市長星野順一郎氏にお話を伺いました。

●我孫子市が自慢できることをお聞かせください。

■都心に近くやすらげる水と鳥のまち

我孫子市は都内から約30km、常磐線で約35分と、都心に近い水と緑が豊かなまちです。市内を走る鉄道は常磐線と成田線があり、上野東京ラインの開通でより交通利便性が向上しました。

市内にある手賀沼の美しい風景は、都会の住宅地では味わえないやすらぎと癒しをあたえてくれます。また、手賀沼沿いの遊歩道を歩けばたくさんの鳥たちと出会うことができる我孫子市の環境は、忙しい毎日の中でも、ほっとでき、家族とゆったりと過ごすことのできるまちであることが分かります。



手賀沼からみたダイヤモンド富士 (写真提供：我孫子市)

■手賀沼花火大会

毎年8月の第一土曜日に手賀沼花火大会を開催しています。都心では隅田川花火大会が有名ですが、手賀沼の花火大会もとても素晴らしいものです。河川で開催される花火大会では見ることのできない、沼面で美しいドーム型の光をかたどる「水中花火」など、約13,500発の光の共演が繰り広げられます。

今年は8月5日に開催する予定です。ぜひ多くの方々に楽しんでいただきたいと思います。



手賀沼花火大会 (写真提供：我孫子市)

■未来を担う子どもたちを大切にしたい

我孫子市は「子育て支援」に力を入れています。市の保育園の待機児童数0を継続し、今年度で31年目となりますが、「学童保育」も待機児童0となっています。

また、子どもの医療費についても、入院・通院いずれの場合も中学3年生までは200円という施策を平成19年から続けています。

子どもたちが学ぶ環境については、一つひとつ回って自分の目で確認し、問題を抱える部分は建て替えを含め、改善に力を入れてきました。東日本大震災以降はさらにスピードを上げて改修を行い、平成27年度までに校舎、体育館の改修を終え、平成28年度以降はそれまで耐震工事に向けていた金額を小中学校のエアコン整備に向け、全ての小中学校に設置しました。



我孫子市長 星野 順一郎氏 北柏支店長 中野 祐司

■市民の声に耳を傾ける

我孫子市は駅を中心に、我孫子・天王台・湖北・新木・布佐の5つの地区があり、交通上の特性や歴史が異なります。各地区の市民の声を聞いて住みやすいまちづくりができるように、春秋の年2回、誰でも参加できるタウンミーティングを開催しています。

また、2年に一度は子ども議会を開催するとともに、年4回開催される議会の合間には小中学校を訪問しています。純粋な子どもたちは、いろいろな話をしてくれますので、市の財政を家計に例えながら、何を優先すべきかわかりやすく説明し、子どもたち自身が本当に必要なことが何か話し合えるようにしています。

その他にも、保育園・学童の保護者とも直接意見交換を行い、不安を解消できるよう努めています。

■我孫子市が誇る企業之力

我孫子市には世界に誇れる企業があります。緩みにくいネジを作る松本産業株式会社です。「ノジロック」というその特殊ネジは、宇宙ステーション補給機「こうのとりの号・6号」に搭載された超小型衛星にも使われました。ロケットを宇宙に打ち上げる際に起こる激しい揺れ、その振動にも緩むことがないため、海外からも注目されています。



松本産業株式会社の作業風景（写真提供：我孫子市）

また、市長就任以降、市内の商店経営者に我孫子市を代表するお土産を作ってほしいとお願いしていました。すると、地元へ愛着を持った企業がさまざまな素晴らしい商品を開発してくれました。今年市内の洋菓子店メヌエツトが作った「檸檬（れもん）のバーム」は、第27回全国菓子大博覧会[※]で、農林

水産大臣賞を受賞しました。県産卵と瀬戸内のレモンを使用し、甘さを抑えたその味は、夏場でもさわやかで、美味しくいただくことができます。ぜひ多くの方に味わっていただきたいです。



第27回全国菓子大博覧会「農林水産大臣賞」の「檸檬のバーム」

●今後の展望についてお聞かせください。

■まちの持つ強み、資源を活かしたまちづくり

我孫子市の魅力のひとつ「我孫子ゴルフ倶楽部」では、今年9月に第50回日本女子オープンゴルフ選手権が開催され、期間中には多くのゴルフファンが訪れます。

この機会に多くの方に我孫子市の魅力を伝えるため、市民団体や関係機関と一緒に観光情報や市のふるさと製品の販売など様々な企画を検討し、訪れるファンへの“おもてなし”や市民の皆さんと一緒に様々なPR企画に取り組んでいきたいと思っています。大会では、アマチュアの優勝者に我孫子市長賞を設け、大会も盛り上げていきたいと思っています。

また、手賀沼のほとりにある「水の館」は6月にリニューアルし、地元産の野菜を買うことができる「農産物直売所あびこん」、我孫子のお米と野菜にこだわった「農家レストラン米舞亭（まいまいてい）」がオープンしました。新米フェアや新そばまつり、ちびっ子もちつき大会など、年間を通して旬を感じる様々なイベントを開催し、まちの活性化に繋げていきます。

水辺は心がおちつく場所です。都心にこれだけ近い水辺空間は他にないと思います。手賀沼の自然を大切に生かし、市の名前のように「我（われ）・孫（まご）・子（こ）」3世代が住めるやさしいまちづくりを目指していきたいです。

■筑波銀行に期待すること

企業が成長することがまちの活性化につながります。商業が活性化するだけでなく、市税にも跳ね返り、さらなる雇用も生まれます。この流れを市としては大事にしていきたいと思っています。地元の地方銀行である強みを生かし、企業の様々な相談ごとに対して話を聞き、事業性の評価に基づき、しっかりと支援をお願いしたいと思います。

※明治44年の第1回帝国菓子大品評会以来、第二次大戦中に一時中断したものの、一世紀余りの歴史を重ねてきた由緒ある菓子博覧会で、本年度は4～5月に三重県伊勢市で開かれ、約2,200の和洋菓子が出品された。